

(別記様式第1号)

計画作成年度	平成23年度
計画主体	羅臼町

第2期 羅臼町鳥獣被害防止計画

< 連絡先 >

担当部署：羅臼町水産商工観光課

所在地：北海道目梨郡羅臼町栄町100番地83

電話番号：0153-87-2126

F A X 番号：0153-87-2916

目 次

1. 対象鳥獣の種類、被害防止計画の期間及び対象地域	1	
2. 鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止に関する基本的な方針	1	
(1) 被害の現状（平成21年度）	1	
(2) 被害の傾向	2	
(3) 被害の軽減目標	2	
(4) 従来講じてきた被害防止対策	3-5	
(5) 今後の取組方針	5-6	
3. 対象鳥獣の捕獲に関する事項	6	
(1) 対象鳥獣の捕獲体制	6	
(2) その他捕獲に関する取組	7	
(3) 対象鳥獣の捕獲計画	7-8	
(4) 許可権限委譲事項	8	
4. 防護柵の設置その他対象鳥獣の捕獲以外の被害防止に関する事項	9	
(1) 進入防止柵の整備計画	9	
(2) その他被害防止に関する取組	9	
5. 被害防止施策の実施体制に関する事項	10	
(1) 被害防止対策協議会に関する事項	10	
(2) 関係機関に関する事項	10	
(3) 鳥獣被害対策実施隊に関する事項	11	
(4) その他被害防止施策の実施体制に関する事項	11	
6. 捕獲した対象鳥獣の処理に関する事項	11	
7. その他被害防止施策の実施に関し必要な事項	11	
別紙1	鳥獣被害分布図	12
別紙2	対象鳥獣捕獲員予定者名簿	13
別紙3	エゾシカ捕獲実施予定区域図	14
別紙4	被害防止協議会及び関係機関の連携図	15

1. 対象鳥獣の種類、被害防止計画の期間及び対象地域

対象鳥獣	エゾシカ、ヒグマ、トド、アザラシ類、オオセグロカモメ、アライグマ
計画期間	平成23年度～平成25年度
対象地域	羅臼町一円

2. 鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止に関する基本的な方針

(1) 被害の現状（平成21年度）

鳥獣の種類	被害の現状	
	品目	被害数値
エゾシカ	牧草	被害額 3,400 千円
		被害面積 34 ha
	昆布	被害額、面積不明。 干場の清掃作業の負担。
	交通事故	25件 金額不明 (羅臼町で収容した件数。実際はこの数倍と思われる。漁業従事者が現場へ移動する際の事故も多い。)
	庭木、花壇、家庭菜園	周囲を網で囲まなければ全滅する。
ヒグマ	水産加工場への出没	被害額 不明
		被害件数 22 件
	漁業番屋等の周辺への出没	被害額 不明
被害件数 57 件		
人家周辺への出没	被害額 不明	
	被害件数 96 件	
トド、アザラシ類	サケ、イカ、マダラ、スケトウダラ、タコ	被害額 37,290 千円
		被害数量 790 t
	漁具	被害額 不明
オオセグロカモメ	加工場や倉庫、人家の屋根	被害額 不明 千円
		被害面積 不明
アライグマ	無し	被害額 0 千円
		被害面積 0 ha

(2) 被害の傾向

エゾシカ	<ul style="list-style-type: none"> ・知床半島全体では6,000～10,000頭の生息数と推定されているが、羅臼町内の生息数は不明である。 ・被害は積雪期を除く4～11月に町内全域で発生している。 ・その内容は10年ほど前までは主に酪農地域に出没し牧草の食害が大部分を占めたが、近年は市街地や道路周辺への出没が顕著で、庭木や花壇、家庭菜園の食害がひどく、交通事故も多い。 ・エゾシカが市街地や道路、海岸を闊歩しており、産業活動や住民生活等の様々な面で支障をきたしている。
ヒグマ	<ul style="list-style-type: none"> ・知床半島全体では最低でも200頭は生息していると推定されているが詳細は不明。 ・12月中旬～3月中旬の冬眠期間を除いて出没の恐れがあるが、一般的には5月～10月の出没が多い。 ・羅臼町は人家のすぐ裏までヒグマの生息する森林がせまっているため、町内全域でヒグマが出没する。 ・頻繁な出没は人身事故の恐れがあり、産業活動や住民生活等の様々な面で支障をきたす。過去には番屋に押し入った例もある。
トド、アザラシ類	<ul style="list-style-type: none"> ・例年11月～6月頃に羅臼沖に来遊し、定置網や刺網にかかった水産物を食い荒らし漁具にも被害を与える。 ・来遊数は数百頭レベルと思われるが詳細は不明である。 ・トドかアザラシ類かの被害区別が困難であるが、被害額は減少傾向に無い。
オオセグロカモメ	<ul style="list-style-type: none"> ・町内全域に生息しており、生息数は不明。 ・5月～8月にかけて加工場や倉庫、人家の屋根に営巣し、糞や騒音など衛生面で環境悪化を招いている。
アライグマ	<ul style="list-style-type: none"> ・平成15年に町内河川への出没を確認された後、しばらく目撃されていなかったが、環境省事業により平成20年に2頭、平成21年には1頭が撮影され町内への侵入が再度確認された。 ・現在まで被害は発生しておらず、生息数も不明であるが生態系への悪影響が懸念されている。

※被害状況の地図は別紙1のとおり

(3) 被害の軽減目標

指 標		現状値 (平成21年度)	目標値 (平成24年度)	備考
エゾシカによる農業被害	被害額	3,400 千円	3,000 千円	
	被害面積	34 ha	30 ha	
エゾシカによる交通事故	被害額	不明	不明	羅臼町対応件数
	被害件数	25 件	15 件	
ヒグマによる人身事故		0 件	0 件	
トド、アザラシ類による漁業被害	被害額	37,290 千円	35,000 千円	
	被害件数	1,594 件	1,435 件	
オオセグロカモメによる屋根上の卵の撤去		59 個	100 個	平成21年度は極端に少かった。
アライグマ	被害額	0 千円	0 千円	
	被害面積	0 ha	0 ha	

(4) 従来講じてきた被害防止対策

	従来講じてきた被害防止対策	課 題
<p>捕獲等に関する取組</p>	<p>【捕獲体制の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害防止特措法に基づき、羅臼町鳥獣被害対策実施隊を設置、隊員を町職員、公益財団法人知床財団職員、猟友会中標津支部羅臼部会の会員から任命。 (町職員7、非常勤職員16名(財団5名、猟友会11名)) <p>【ハンターの育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羅臼町鳥獣被害防止協議会事業により、ハンター資格所有者を4名育成。(うち町職員1名) <p>【エゾシカ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猟友会委託により、春季2回、冬季8回程度、猟銃による有害駆除を実施。 ・捕獲奨励金制度により、報償費を交付。 (制度の内容) 捕獲報償費：3,000円/頭 (メスに限る) ・冬季に羅臼町鳥獣被害防止協議会事業で、牧草誘引による一斉駆除を5回実施。 ・通年で、交通事故で負傷した個体や家や庭の囲い網にら網した個体の安楽殺処置。 	<p>【ハンターの育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狩猟の魅力の低下から、狩猟を志す者の減少により猟友会員の高齢化及びエゾシカ、ヒグマ対策の人材不足に繋がっている。 <p>【エゾシカ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地や道路周辺、鳥獣保護区など積極的に捕獲できない場所に多く生息している。 ・狩猟や有害捕獲による捕獲がより進むよう狩猟規制の緩和を要望するとともに、有害駆除の方法として、市街地や道路周辺等における猟銃を用いない捕獲の技術的開発が必要である。 ・エゾシカ利活用施設や処理施設がないため捕獲個体が増加するほど町外への運搬や処理費がかさむ構造になっており、捕獲個体の処理・利活用体制の構築が急務である。 ・希少猛禽類の営巣期に配慮した対策を行う必要がある。 (狩猟期間や有害捕獲実施場所など)

	従来講じてきた被害防止対策	課 題
捕獲等に関する取組	<p>【ヒグマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町広報等により生ゴミ、加工残渣の管理徹底(野外放置しないことなど)を普及・啓発。 ・出沒時は知床財団及び町の連携により、花火弾、ゴム弾、轟音玉を用いて追い払いを実施。 ・追い払い効果の無い個体や人身被害の恐れのある問題個体は、猟友会を中心に知床財団及び町との連携により駆除。 ・問題個体で夜間に出沒を繰り返す個体については、道の捕獲許可を受けてはこ罠を設置し捕獲を実施。 	<p>【ヒグマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒグマの生息域と人間の生活圏が隣接しているため、人家裏での目撃や道路横断による漁業番屋周辺への出沒が多く、精神的な不安や生産活動の停止、旅行者の不用意な接近などが問題視されている。
捕獲等に関する取組	<p>【トド、アザラシ類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羅臼漁業協同組合が申請し許可を得て実施。 ・トドについては、北海道連合海区漁業調整委員会が定めた捕獲頭数枠内(平成22年度は10頭)で地元ハンターによる有害駆除を実施している。 ・アザラシは、捕獲許可が必要となった平成16年度より羅臼漁業協同組合が最大80頭の捕獲許可を北海道より得て地元ハンターによる有害駆除を実施。 ・トド、アザラシの捕獲個体は駆除実施の際の目撃頭数等の情報とともに調査研究団体に検体 <p>【オオセグロカモメ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋根上の卵と雛の有害駆除と巣の撤去を実施。 <p>【アライグマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点では被害が発生していないため、町での捕獲実績は無い。 ・環境省事業のアライグマ目撃情報呼びかけるチラシの配布に町の広報を活用し協力している。 ・平成23年度に特定外来生物防除申請を行い捕獲体制の構築を図る。 	<p>【トド、アザラシ類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害を発生させる個体を特定することは難しい。 ・被害状況が数値化されているが、漁業者からの報告が無いこともあり正確では無い。 <p>【オオセグロカモメ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人家屋根へ営巣させない手法が不明である。 <p>【アライグマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜行性の傾向が強いため、実態が把握されにくい。

	従来講じてきた被害防止対策	課 題
防護柵の設置等に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・防護柵設置に関する取り組みは実施していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・猟銃を用いた捕獲には限界があるため、防護柵等の設置の検討が必要。 ・防護柵の効果は斜里町で実施され、実証されているが、単独費用の捻出が難しい。

(5) 今後の取組方針

<p>《背景》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羅臼町は斜里町とともに、生態系及び生物多様性が高く評価された世界自然遺産「知床」を構成している。 ・ヒグマの高密度生息地であり、絶滅危惧種であるトド等も来遊するなど、優れた自然環境を有しているが、反面、それら野生動物と人との軋轢が生じている。 ・特にエゾシカ等の増えすぎた野生動物は、生態系へ悪影響を与える恐れもあり、世界遺産地域では、国による個体数調整も行われている。 <p>《取組基本方針》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これら背景を踏まえ羅臼町の鳥獣被害防止対策としては、野生鳥獣と人間の共存に配慮した対策を進めることを基本的な方針とし、次の対策を実施する。
<p>【エゾシカ】</p> <p>予防原則により国が世界遺産地域内の個体数調整を実施することから、町は世界遺産地域外において捕獲を実施し、生息数の減少を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①狩猟免許所有者の育成 ②猟銃を用いた一斉捕獲の実施 ③麻酔薬を用いた市街地での捕獲 ④囲い罠やくくり罠を用いた捕獲の実施 ⑤進入防止柵の導入の検討 ⑥捕獲個体の有効活用の検討 <p>【ヒグマ】</p> <p>高密度の生息状況を維持するため積極的な捕獲は行わない。また、現在、関係機関により作成中であるヒグマ保護管理方針（案）が策定された後には、その方針に基づき世界遺産地域を含め国等と連携し対策を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①花火弾やゴム弾、轟音玉を用いた追い払いの実施 ②問題個体の捕獲の実施（猟銃、はこ罠） ③住民及び旅行者への生態等の普及啓発の実施 ④進入防止柵の導入の検討 <p>【トド、アザラシ類】</p> <p>トドやアザラシの一種が絶滅危惧種に指定されていることについて留意し、当面は漁業被害を防ぐ最小限の捕獲等を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地元ハンターによる捕獲の実施

【オオセグロカモメ】

産業への大きな被害は発生していないが、屋根上での騒音や糞等による衛生面での生活環境被害防止のため、従来からの対策を実施する。

- ①家屋屋根に限った卵・雛の捕獲及び巣の撤去

【アライグマ】

町内において被害は発生していないが、国等との連携により被害や生息数の拡大を未然に防ぐ対策を実施する。

- ①特定外来生物防除に係る申請を行い捕獲体制を整備する

3. 対象鳥獣の捕獲に関する事項

(1) 対象鳥獣の捕獲体制

【羅臼町鳥獣被害対策実施隊】

平成20年に羅臼町鳥獣被害防止協議会を設立。協議会構成機関・団体の構成員である羅臼町環境管理課職員、(財)知床財団羅臼地区事業係職員、北海道猟友会中標津支部羅臼部会会員を羅臼町鳥獣被害対策実施隊隊員に指名、または任命し、この中から鳥獣の種類や捕獲方法等により個別に従事者を選抜。

また、北海道猟友会中標津支部羅臼部会会員を対象鳥獣捕獲員に指名、または任命している。

【エゾシカ、ヒグマ】

- ・羅臼町が(財)知床財団に対しヒグマの追い払いや痕跡調査等の初期対応について年間委託契約を締結。
- ・羅臼町が北海道猟友会中標津支部羅臼部会に対し、出動体制整備のため年間委託契約を締結。
- ・猟銃によるエゾシカ有害駆除回数：10回程度/年(4月～3月)
- ・24時間通報体制の構築と周知(羅臼町が窓口)

【トド、アザラシ類】

- ・羅臼漁業協同組合が地元ハンターを捕獲従事者として依頼。

【オオセグロカモメ】

- ・羅臼町職員が出動し手捕により対応。

【アライグマ】

- ・現在の捕獲体制は無い。
- ・環境省が希少鳥類の保護のためアライグマ侵入状況調査を実施しており、その際に自動撮影装置の設置と捕獲檻を設置している。

【捕獲報酬及び報償費の交付】

(羅臼町支給分)

- ・ヒグマ報酬 5,000円/日
- ・エゾシカ報償費 3,000円/頭(メスに限る)

(羅臼漁協支給分)

- ・トド報償費 30,000円/頭(水産庁事業)

※対象鳥獣捕獲員予定者名簿は別紙2のとおり

(2) その他捕獲に関する取組

年 度	対象鳥獣	取組内容
平成23年度	エゾシカ	・罾による捕獲の検討 ・麻酔銃を用いた捕獲の実施
	ヒグマ	・はこ罾の補修
平成24年度	エゾシカ	・囲いわなの設置及びくくり罾での捕獲 ・麻酔銃を用いた捕獲の実施
	ヒグマ	・はこ罾の補修
平成25年度	エゾシカ	・囲いわなの設置及びくくり罾での捕獲 ・麻酔銃を用いた捕獲の実施
	ヒグマ	・はこ罾の補修

(3) 対象鳥獣の捕獲計画

捕獲計画数等の設定の考え方
<p>【エゾシカ】 環境省の調査では知床半島全体では約6,000～10,000頭程度の生息数と推定されていることから、羅臼町市街地周辺や道路周辺への出没個体群の母数は1,000～1,500頭程度との仮定で捕獲計画を設定して当面支障がないものと思われる。エゾシカの自然増加率は概ね20%以上見込まれるので、毎年少なくとも200～300頭以上捕獲しなければ増加する。 現在、狩猟による捕獲は150頭程度であるが、狩猟者人口の減少を想定し年間平均150頭とする。個体数調整（有害駆除）では、猟銃により最低年100頭を捕獲する。交通事故で負傷した個体や庭を囲う網へ絡まった個体は例年20件程度発生するが、住民の放獣希望や試験的な放獣等以外は、自然復帰をせず捕獲する。 また、罾などの効果的な方法での捕獲で30頭程度とし、以降の年度はそれ以上の捕獲を目指し生息数の減少を図る。</p> <p>【ヒグマ】 追払いを原則とするため捕獲目標数は定めない。ただし、繰り返しの出没する個体や人身事故の恐れの高い個体は躊躇せず捕獲する。</p> <p>【トド、アザラシ類】 トドは北海道連合海区漁業調整委員会による捕獲枠内（H22年度は10頭）とする。アザラシ類は過剰な捕獲を抑制するため、従事者数と従事者1名当りの最大捕獲数は従来の例を越えない範囲とする。 (従事者8名×従事者1名あたりの最大捕獲数10頭＝80頭)</p> <p>【オオセグロカモメ】 町内での生息状況が不明なため捕獲目標頭数は定めないが、家屋等の屋根上に限り卵及び雛の捕獲、巣の撤去を行う。</p> <p>【アライグマ】 町内での生息状況が不明なため捕獲目標頭数は定めないが、外来生物法が定める特定外来生物であるため、確認された場合は積極的に捕獲する。</p>

対 象 鳥 獣	捕 獲 計 画 数 等		
	平成23年度	平成24年度	平成25年度
エゾシカ	狩猟 150頭 駆除 150頭	狩猟 150頭 駆除 200頭	狩猟 150頭 駆除 250頭

捕獲等の取組内容
<p>【エゾシカ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>狩猟による捕獲（10月～1月 年間平均150頭）</u> 鳥獣保護法に基づく特定鳥獣保護管理計画を北海道が策定しており、北海道独自の狩猟規制強化や緩和がなされている。この狩猟可能区域や狩猟期間等の規制内容について、出来るだけ多くのエゾシカ捕獲が行われるよう、狩猟者等の関係者と協議しながら北海道に要望する。 ・<u>猟銃による捕獲（2月～5月の間で年10回程度 年間100頭以上）</u> 2月以降は積雪量が少なく笹が露出している海岸部にエゾシカが集まる。この時期に猟銃を用いた巻き狩りを実施し、効率的に生息数の減少を図る。捕獲場所は、特に狩猟による捕獲が行われない鳥獣保護区を重点的に実施する。 ・<u>罾等による捕獲（通年 30頭以上）</u> 市街地等に出没するエゾシカの捕獲方法として、麻酔薬による捕獲が技術的に確立しつつあるが、麻酔薬が高価で人手も多くかかることが欠点である。これに代わる捕獲方法として、くくり罾や囲い罾の導入を図る。捕獲場所や捕獲時期については今後検討を進める。 <p>【その他の野生鳥獣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害状況や過年度の捕獲実績に基づき取り組む。

※エゾシカ捕獲実施予定区域図は別紙3のとおり

(4) 許可権限移譲事項

対 象 区 域	対 象 鳥 獣
町内全域 (国及び北海道指定の鳥獣保護区を除く)	エゾシカ

4. 防護柵の設置その他の対象鳥獣の捕獲以外の被害防止に関する事項

(1) 侵入防止柵の整備計画

対象鳥獣	整備内容		
	平成23年度	平成24年度	平成25年度
エゾシカ、ヒグマ	導入の検討		

(2) その他被害防止に関する取組

年度	対象鳥獣	取組内容
平成23年度 ↓ 平成25年度	エゾシカ	【捕獲体制の充実強化】 ・ハンター資格取得者への助成。
	ヒグマ	【追い払い体制の充実強化】 ・追い払い業務担当職員の銃所持許可関係費用の助成。 ・追い払い用猟銃取り扱いに関する研修の実施。 【啓発普及活動】 ・ヒグマを引き寄せないため草刈や生ゴミ・農水産物残渣の管理の徹底について啓発。(町広報) 【わな猟免許更新】 ・わな猟免許所持職員の更新に係る費用助成。
	オオセグロカモメ	【啓発普及活動】 ・生ゴミ・農水産物残渣の管理の徹底について啓発。(町広報)

5. 被害防止施策の実施体制に関する事項

(1) 被害防止対策協議会に関する事項

被害防止対策協議会の名称	羅臼町鳥獣被害防止協議会
構成機関の名称	役割
羅臼町	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害防止対策全体の統括 ・協議会構成団体の連絡調整 ・協議会への財政支援（負担金支出） ・鳥獣被害防止計画の策定・変更 ・鳥獣被害対策実施隊の編成 ・対象鳥獣捕獲員への連絡調整 （猟友会に委託） ・エゾシカ・ヒグマの捕獲許可申請事務 ・エゾシカ捕獲（知床財団に一部委託、対象鳥獣捕獲員へ報償費支給） ・ヒグマ追払い（知床財団に一部委託） ・ヒグマ捕獲（対象鳥獣捕獲員に報酬支給） ・ヒグマ誘引物の除去、住民への普及啓発
北海道森林管理局根釧東部森林管理署	<ul style="list-style-type: none"> ・国有林周辺及び林内での捕獲に関する調整と承認手続き
羅臼漁業協同組合	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業被害の把握 ・トド、アザラシの捕獲許可申請事務
峯浜地区酪農集落	<ul style="list-style-type: none"> ・農業被害の把握
北海道猟友会中標津支部羅臼部会	<ul style="list-style-type: none"> ・対象鳥獣捕獲員の統括、連絡調整 （町から受託） ・猟銃による捕獲の作戦立案・指揮・用具準備（町から受託）
公益財団法人 知床財団	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地に出没したエゾシカの捕獲 （町から受託） ・ヒグマ追払い（町から受託） ・エゾシカ、ヒグマ等の調査研究 ・専門家の見地からのアドバイス ・住民、観光客等への普及啓発
トレジャーファーム	<ul style="list-style-type: none"> ・罠によるエゾシカの捕獲 ・捕獲したエゾシカの利活用

(2) 関係機関に関する事項

関係機関の名称	役割
環境省羅臼自然保護官事務所	国指定知床鳥獣保護区の管理（捕獲許可等）
北海道根室振興局農務課	鳥獣被害防止総合対策事業の指導
北海道根室振興局環境生活課	鳥獣対策の窓口（捕獲許可等）
羅臼警察官駐在所	住民の安全の確保（ヒグマ対応等）

(3) 鳥獣被害対策実施隊に関する事項

- ・ 羅臼町は羅臼町鳥獣被害対策実施隊を平成20年9月に設置
- ・ 羅臼町鳥獣被害防止協議会の構成員により編成される。
- ・ 羅臼町環境管理課職員から7名、(財)知床財団から5名、北海道猟友会中標津支部羅臼部会から11名を任命し、羅臼町職員以外を非常勤職員とする。
- ・ 羅臼町が行うエゾシカ及びヒグマ捕獲に参加。(4月～12月、各10回程度/年)
- ・ 協議会が行うエゾシカの一斉捕獲など捕獲活動に参加。(約5回程度/年)

(4) その他被害防止施策の実施体制に関する事項

羅臼町においては、組織や方法を含め様々な形の被害対策が実施されていることから、対策ごとに適切な実施体制を構築すべく十分な協議を行う。

6. 捕獲等をした対象鳥獣の処理に関する事項

【エゾシカ】

エゾシカの捕獲個体は出来るだけ利活用する。利活用にあたっては、平成20年春に中標津町で開業した民間鹿肉処理場と連携し、北海道の「エゾシカ衛生処理マニュアル」に沿った安全で高品質の鹿肉として利活用することを原則とし、地域の新たな産業の発展を図ることで行政の処理コストの削減を図る。利活用の困難な個体(交通事故での死亡等)は羅臼清掃センターに設置する一時保管冷蔵庫で保管し、定期的に町外の民間廃棄物処理場に運搬し処理(焼却)を委託する。

【ヒグマ】

ヒグマの捕獲個体は知床財団が調査・計測の後、内臓の一部は北海道環境科学研究センターに送付する。他の部位について利活用可能な場合は捕獲者(ハンター)が個人的に利用し、それ以外は清掃センターに設置する一時保管冷蔵庫で保管し、町外の民間廃棄物処理場に運搬し処理(焼却)を委託する。

【トド、アザラシ類】

トド、アザラシ類の捕獲個体は出来るだけ研究機関へ検体として提供し、検体として不要な部位については捕獲者(ハンター)が個人的に利用する。

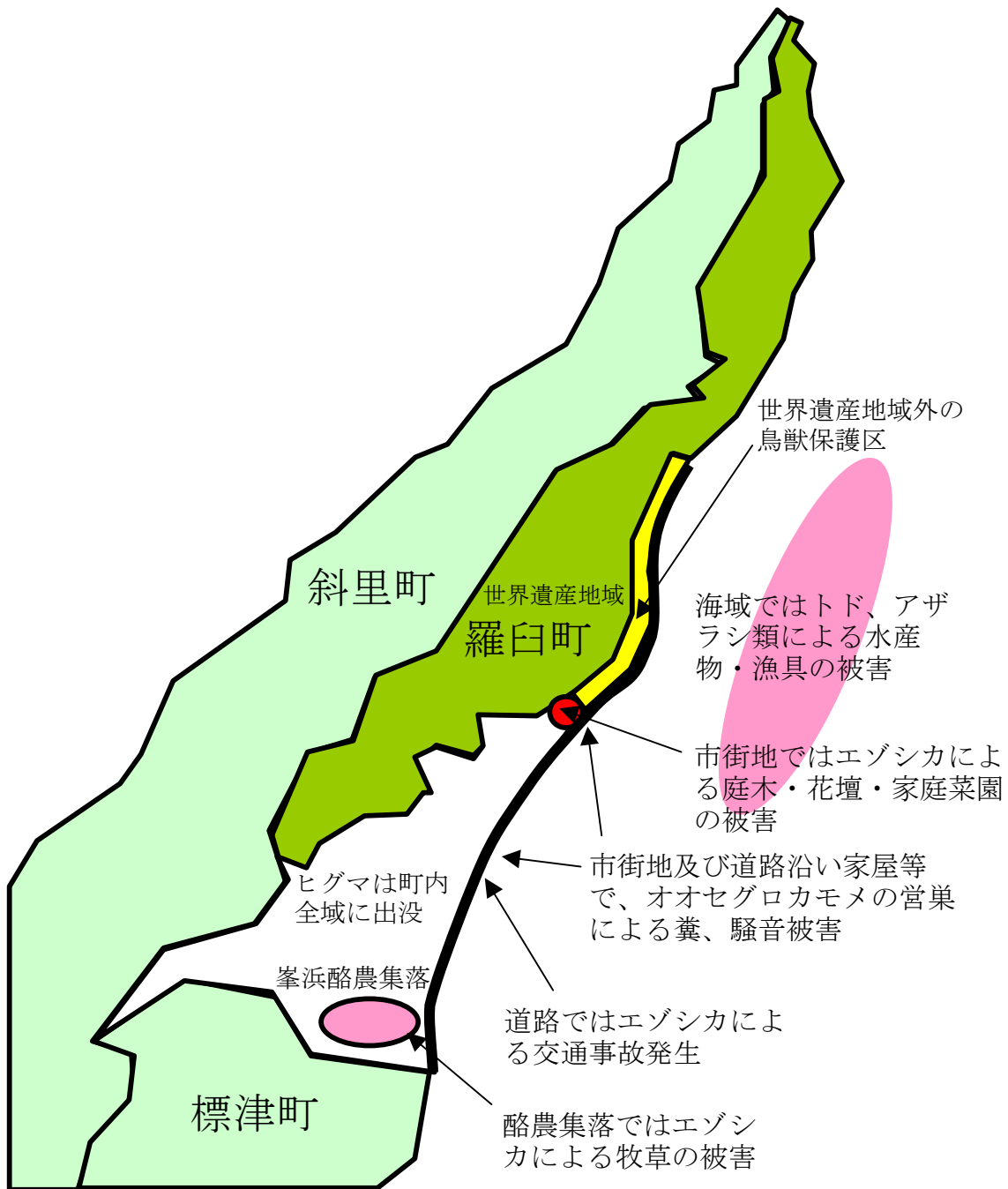
【その他鳥獣】

調査研究機関に必要とされる場合は検体として提供し、不要な場合は一般廃棄物として羅臼町が処理する。

7. その他被害防止施策の実施に関し必要な事項

特に無し

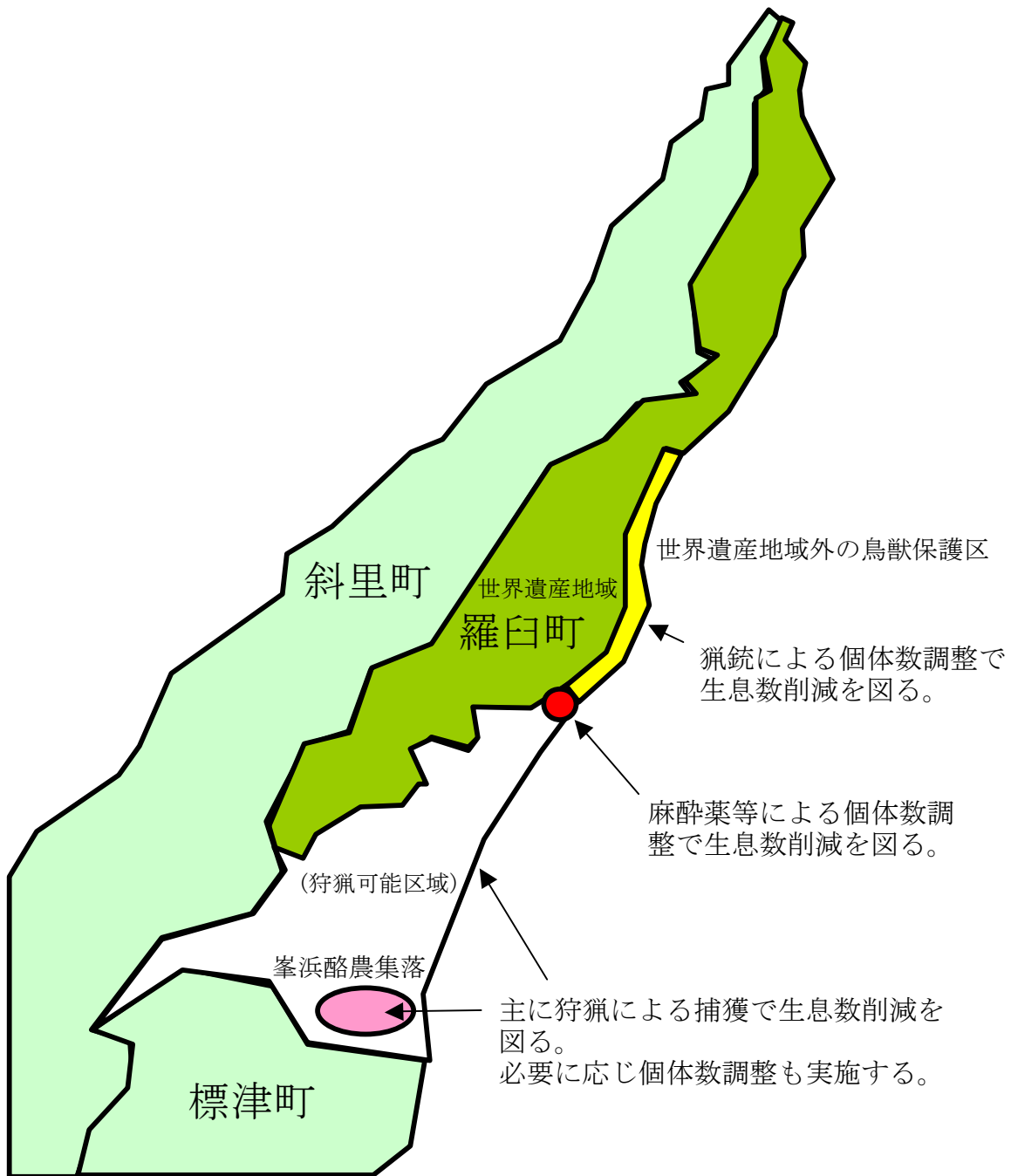
鳥獣被害分布図



対象鳥獣捕獲員予定者名簿

	氏 名	住 所	職 業
1	石名坂 豪		
2	大野 広正		
3	葛西 忠廣		
4	金澤 裕司		
5	菊地 修司		
6	倉澤 皆子		
7	堺 正利		
8	桜井 憲二		
9	桜井 光雄		
10	須藤 公男		
11	田澤 道広		
12	中川 正裕		
13	中村 孝代		
14	宮腰 實		

エゾシカ捕獲実施予定区域図



被害防止対策協議会及び関係機関の連携体制

